

平成28年9月16日、光赤天連総会@愛媛大学

国立天文台岡山天体物理観測所の今後について

泉浦秀行

岡山天体物理観測所の共同利用の今後について、平成28年9月7～8日に開かれたユーザーズミーティングでの議論により了承された事項を報告する。

- *平成29年前期から188cm望遠鏡の共同利用を縮小する（装置数、サポートレベル）。
- *平成29年後期の観測公募を3か月前倒しの平成28年12月に行い、その期をもって188cm望遠鏡の共同利用を終了する。
- *平成29年度末に国立天文台Cプロジェクト「岡山天体物理観測所」を終了し、平成30年度に共同利用に関する資源（予算、人的資源、施設、設備等）を京大に移す。
- *平成30年8月にフォトンバケット状態で3.8m望遠鏡による共同利用観測を開始することを目標として、今後京大と岡山は密に協力（最大限の努力を）していく。
- *3.8m望遠鏡共同利用の科学委員会については、当面は現在の岡山プログラム小委員会（現TAC）の審議事項に「3.8m望遠鏡共同利用の運用方針・計画の策定」を追加し、そのため構成員も追加し、現TACが科学委員会の役割を果たすようにして、早期に体制の実現を図る方針で詰める（次回の光赤外専門委員会に提出する予定）。
- *平成29年度からの次期TAC（SAC）については、共同利用立ち上げ（過渡）期と考えて、現在の選出方法を踏襲する形で構成員を選び、光赤外専門委員会に推薦するようにする。
- *望遠鏡や共同利用装置の立ち上げ方については、今回の提案を元にして、次期TAC（SAC）を中心に詰めていく。
- *共同利用のための時間は、最終的には全観測時間の半分程度を予定しているが、特に立ち上げ期においては、望遠鏡を含む共同利用装置開発のために一定の時間を割くことを認める。
- *焦点システム（焦点の周りの取り合い、装置回転機構、装置フランジ、周辺光学系、参照光源光部等）の検討および仕様決定のために、平成28年12月頃に、共同利用観測での利用を計画している全ての観測装置の情報提供を招請する。平成29年6月には、これらのうち第1期共同利用観測装置の搭載提案を募集する。
- *共同利用観測者の観測環境（旅費の補助、宿泊、食事、清掃、通信）は当面、現状を維持する方向で検討する。そのために、研究棟、食堂、工場は京大が引き継ぐ。
- *3.8m望遠鏡およびそれを利用した共同利用に対するコミュニティからの支持をより明確に示していくようにする。特に、国立天文台に要望書を出すことを検討する。
- *既存望遠鏡群については、平成30年度以降も国立天文台が維持する。その継続利用にあたっては、研究者グループ等による自己負担での運用を行う。国立天文台は基本的にミニマムな維持を行う（草刈り等の構内整備費と管理に必要な人件費の程度）。

以上。